

第三者意見



中原 秀樹 (なかはら ひでき)

東京都市大学(旧 武蔵工業大学)大学院環境情報学研究所 教授
国際グリーン購入ネットワーク(IGPN) 会長

東横学園女子短大助教授、マンチェスター・メトロポリタン大学客員教授を経て武蔵工業大学環境情報学部教授、現職に。専門は「持続可能な消費」。環のくらしフォーラム座長、産業構造審議会専門員、先駆的省資源・省エネルギー事業推進委員会会長、中央教育審議会専門委員、世田谷区環境審議会会長、環境経営学会会長などの公職を歴任。教職の傍らグリーン購入ネットワーク会長、横浜市地球温暖化対策地域協議会会長としてNPO活動にも従事。2013年1月から国連環境計画(UNEP)の持続可能な公共調達イニシアティブ(SPPI)アドバイザーに就任。

CSR報告書と言うと、とかく「GRIガイドライン*」対照表を付け、該当ページを記載しているものが多く見受けられますが、滋賀銀行のCSRレポートには、「『CSR憲章(経営理念)』の3つの約束を軸に、わかりやすい言葉と写真の多用により活動内容をご理解いただけるよう心がけました。」とあるように、読みやすく、わかりやすい報告書となっています。滋賀銀行の多様なステークホルダーに情報開示したいという意思が読み取れ、高く評価できます。

また、「『未来からの預かりもの』である琵琶湖を擁する滋賀県の地元銀行として、『環境金融』の更なる充実により、持続可能な社会づくりに貢献するとの使命を再認識し、『お金の流れで地球環境を守る』との気概で、『地球温暖化防止』ならびに『生物多様性保全』に向けた取り組みの実現に努めてまいります。」とあるように、「環境預金」「環境融資」「SRIファンド」の伸びなどの具体的な情報開示や、近江商人の商人道徳である「三方よし」の考え方に基づいた「預けてよし」「預かってよし」「世間・環境によし」の地球環境との共存共栄に取り組む考え方への理解が深まりました。

生物多様性保全では、さまざまな「いきものがたり」活動を展開していることに敬意を表します。今後、マザーレイクである琵琶湖を中心とした「いきものがたり」活動が全体的に理解できるマップなどを作成されると更に可視化でき、わかりやすくなると考えます。

人権啓発では、「セクシュアルハラスメント」もさることながら、全般的に組織が見落としがちな問題として存在している「パワーハラスメント」があります。健全な経営を遂行するためにも、役職員との共存共栄の行く手を阻む可能性のある問題に、PDCAサイクルを回しながら透明性の確保に努めることが大切です。

特集では、少子高齢化・人口減少を課題に取り上げ、対応策として「高齢者・障がい者の雇用促進」「ワークライフバランスの向上」「店舗のバリアフリー化への取り組み」「顧客接遇」などにも取り組み、社会的課題解決を考えることへのアプローチをしていることは高く評価でき、更なる充実とその情報開示を期待しています。

最後に、滋賀銀行のCSR経営で注目すべきことは、根本精神となる「CSR憲章」のもと、3つの約束である「地球環境」・「役職員」・「地域社会」との共存共栄の取り組みを実践していることです。引き続き多様なステークホルダーとのコミュニケーションを積極的に図り、持続可能な社会の構築に大きく貢献していただくことを期待しています。

※【GRIガイドライン】Global Reporting Initiativeのガイドライン。オランダに本拠を置いたサステナビリティ・レポートのガイドラインを提唱する国際的な規格。

編集後記

昨年の「ステークホルダー・ダイアログ(有識者懇談会)」において、当行が今後果たすべき使命・役割について本質的な議論がなされたことを受け、当行がこれからのCSR活動を展開する中で、いかに本業を通じた活動により、社会的課題の解決を実現していくかを見直す貴重な機会となりました。

本年度も各々の活動にストーリー性・継続性を持たせ、社会に影響のある活動を展開していきたいと考えております。是非ご一読いただければと存じます。

忌憚の無いご意見、ご感想をお待ちしております。

総合企画部 CSR室